

イングランド南80マイル

# 星降るサーク島を征く

チャネル諸島に属する

英国の離島、サーク。

人口600人ほどのこの島には、

夜道を照らす街灯もなければ、

キャッシュ・マシンもなし、

車さえも走っていない。

都会に住む者にとっては

不便に感じられるかもしれないが、

そこには満天の星空と、

独自のリズムで生きる

人々の暮らしがあるという。

あわただしいロンドンの街を離れ、

彼の地へと旅に出た。



## 封建制の島



ヨーロッパの有名な観光地はもう押さえたし、ビーチでのんびりという季節でもない。でもふらっとどこかに出かけたい、そんな思いを抱いている人に届けたい今回のサーク(Sark)特集。「離島」と聞いて、なんだかよくわからないけど特別な体験ができそうと思う人も多いのではないだろうか？

島の散策を始める前に、まずはこの島の歴史を簡単にまとめておきたい。

サーク島は、英仏海峡に浮かぶチャンネル諸島(Channel Islands)に属している。同諸島を構成するジャージー島



サーク島の主要部分とリトル・サークをつなぐ地峡「ラ・クーベ」。左右には海が広がり、眺めは壮観！

ガーンジー島、オルダニー島を含む主要4島の中でも最も小さく、わずか5・45平方キロメートルの面積は、沖縄の竹富島とさほど変わらない。

イングランド南岸から80マイル、フランスのサン・マロ湾からは20数マイル。距離で見ればフランスに属するのが自然だ。しかし、もともとフランスのノルマンディー地方の一部だったこの島は、1066年にノルマンディー公ウイリアムがイングランド王として即位して以来、イングランド(のちに英国)の一部として今日までの歴史を歩んできた。

イングランド領になったとはいえ、本土から遠く離れた島の管理は行き届かず、そのせいでフランスからの侵略

を受け、こともたびたびあった。この事態を懸念し策を講じたのが、時の女王エリザベス一世である。1565年、女王は当時ジャージー島の一部を支配していたヘリエ・ダ・カータレイに統治権を与え、フランスおよび海賊から島を守ることを命じた。カータレイは島内を40区画に分け、それぞれを臣下に付与し、臣下には島の警護を義務付けた。さらに島の長として、40人の臣下らとともに議会を構成する形でサーク島の封建制を誕生させた。

その後、領主や臣下らの地位は代々受け継がれ、「中世ヨーロッパの典型」とされるこの封建制度は、時代とともに少しずつ形を変えながらも、驚くことに20世紀に入っても続けられた。

だが、英国本土からの移住者が増えるにつれ、サークに変化の波が押し寄せた。新しい住民たちから、「島の制度は今の時代にそぐわない」と不満の声が上がるようになったことで、欧州人権裁判所が封建制の停止を指示。これを受け、わずか8年前の2008年に民主制に移行し、この年、初めての選挙が実施された。

こうした事情からもわかるように、サーク島は英国領でありながらも高度な自治権を持ち、独自の法の下でおよそ600人が暮らしている。

## 馬で駆ける島



さて、島の散策を始めてみよう。

島内を歩けばすぐにサーク独特の文化に触れることができる。一番わかりやすいのは「非・車社会」だ。サーク島では車が禁じられている。町に車が走っていないというのは少し奇妙な感覚で、すべてが牧歌的な風景に映る。トラクターが町を走る光景(農業や建設業などを理由に許可を得ただけが運転できる)などは実にのどかだ。事故や火災が発生した場合にも、トラクターが救急車両、消防車両を牽引する形で出動するのだという。

島民の足として活躍するのは、自転車と馬。馬は観光にも利用され、馬車



海岸線には無数のフットパスがあり、散策を楽しめる。奥はサーク島に属するブレケー島。テレグラフ・グループを保有する、パークレイ兄弟が1993年に購入し、ゴシック・スタイルの城を建てた。

に乗って島を回るツアーは観光の目玉だ。島の歴史や生活スタイルなどについて説明を受けながら、1時間で島の北側を、あるいは2時間かけて広域を巡ることができる。

少しかだけ視界の高い馬車から見る島の景色は格別で、ツアー中、草木の向こうに突然現れた海の美しさに胸を打たれることもしばしば。リズムカルに刻まれる馬の蹄の音を心地よく感じながらの周遊は、徒歩や自転車とは一味も二味も異なる体験となるに違いない。

特におすすめは、島一番の絶景ポイント「ラ・クーベ(La Coope)」が含まれる2時間のコース。

ラ・クーベは島南部にある地峡のことで、サーク島のメイン部分と、その南にぶら下がるリトル・サークをつないでいる。高さ80メートル、幅わずか3メートルほどの細長い道が延びているので、どこか別世界へつながっているのではないかと思わせる、壮大な景観が広がっている。馬車ツアーに参加しない場合でも、ここは必ず訪れたい場所。特に写真が好きな人には絶好の撮影スポットだ。

馬車ツアーで島の概要をざっくりとつかんだら、自転車を借りて自分の足で散策に出かけてみたい。島内にはレンタサイクル店が3カ所あり、滞在中はかなり重宝する。馬車ツアー中に気になった場所を再訪するのもいいし、



## 1 ベストな季節はいつ？

観光のハイシーズンは、マリンスポーツも楽しめる4月から10月だが、星を楽しむには、夜が長く気候が穏やかな秋がベスト。とはいえ、10月以降は島を行き来するフェリーの運行便数が減り、島へのアクセスが悪くなってしまうので日程にはゆとりが必要。また、満月に近い時期は月の明るさに星が覆い隠されるので、あらかじめ月の満ち欠けを調べて旅の日程を決めたい。

## 2 ロブスター&ホタテに舌鼓

四方を海に囲まれたこの島のシーフードはかなりいける。しかも値段の割りにボリュームたっぷり！ おすすめはカニ、ホタテ、ロブスター=写真。提供するレストランは限られるので、ビジター・センターで確認したい。日によっては閉まる場合もあるので、事前確認と予約が必須。11月から3月にかけては漁が禁止されているため、新鮮な魚介は期待できないが、サーク産の牛や羊、豚などが楽しめる（サークの漁師は冬になると農民に変身するらしい）。また、ほとんどのレストランが午後8時半には完全に閉まる上、繁忙期は予約で埋まる可能性も高いことを心得ておくべし。



# サーク島を楽しむ旅のHow To

島の概要がつかめたら、旅の計画を立てよう！

## 3 自分に合った宿泊スタイルを



島内での宿泊は、2軒あるホテルのほか、ゲスト・ハウス14軒、セルフ・ケータリング26軒、キャンプ・サイト2カ所など選択肢が意外と多い。外食先の数・時間帯が限られているため、セルフ・ケータリングは便利。取材班が滞在した「The Loft Apartment」=写真=は、隅々まで手入れが行き届き、家族で気持ちよくプライベートの時間を過ごすには最適。オーナーのジュリーさんが島の見所を教えてくれる（[www.closdelatour.gg](http://www.closdelatour.gg)）。宿泊情報は観光局のウェブサイトにて（[www.sark.co.uk](http://www.sark.co.uk)）。

## 4 海からサークを眺めてみる



島内の散策中に見た美しい海岸線を海上から眺めるのもまた特別なもの。先祖代々この島に暮らす生粋のサーク島民のジョージ・グイーさん=写真右=のボート・トリップ（約3時間、1人28ポンド）には定評があり、島を回りながら、草花や渡り鳥について解説してもらえる。春から7月中旬には、黄色いくちばしと、ふっくらとした体型で愛嬌たっぷりの渡り鳥「パフィン」（ニシツノメドリ）が見られるのも、このツアーの魅力。

## Travel Information 2016年9月12日現在

### ■ロンドンからのアクセス

各空港から飛行機でガーンジー島へ（1時間30分弱）。ガーンジー島からはフェリー（Isle of Sark Shipping Company: [www.sarkshippingcompany.com](http://www.sarkshippingcompany.com)）でおおよそ55分。フェリーの運行は、夏は1日4～5本、秋（9月17日～10月30日）は2～3本。11月以降は、ウェブサイトでご確認を。片道14.25ポンド。ジャージー島からもフェリーが運行されているが、便数は少ない。またサーク島では、大きな手荷物を船着場から宿泊先まで運んでもらえるサービスもある（宿を予約した際に、詳しい情報がもらえるので、予約確認メールなどでご確認を）。

### ■オーリーニー航空

ガトウィック、スタンステッド、シティの各空港からガーンジー島行きの飛行機を1日9便運行する唯一の航空会社。機体に描かれた渡り鳥「パフィン」の絵がトレードマーク。  
[www.aurigny.com](http://www.aurigny.com)



### ■通貨

基本的に英国本土のポンドが流通しているほか、ガーンジー島、ジャージー島の紙幣と硬貨も使われる（レートは本土と1対1）。キャッシュ・マシーンはない。

Special thanks to: Sark Tourism ([www.sark.co.uk](http://www.sark.co.uk))

### La Seigneurie Gardens

歴代の領主が暮らす家。夏の間はガーデンが一般に公開され、丁寧に整えられた植物を鑑賞することができる。隣には評判のレストラン「Hathaways」がある。



### Brecqhou

### Window in the Rock

岩にぽっかりと開けられた人工の穴を通し、西側の海岸線の美しい眺めが見られることで知られる。

### La Coupee

必ず訪れたい絶景ポイント。幅3メートルほどの舗装路で島の主要部とリトル・サークをつなぐ。

### Little Sark

海水浴が楽しめる砂浜や、岩で仕切られた天然のプールなどもあり。

### Eperquerie

無数のフットパスが広がり、ウォーキング・コースとして人気。どこまでも広がる海を見ていると、島自体が宙に浮かんでいるような不思議な感覚になる。



### The Avenue (メイン・ストリート)

島内にある食料品店、雑貨店、銀行などのほとんどがこの通りに並ぶ。西端にある、島唯一の郵便ポストは必見。2012年ロンドン五輪で、サーク出身のカール・ヘスター選手が馬術競技で金メダルを獲得したことを記念し、金色に塗られた、島の人の誇り。また斜め向かいには、旅の情報がそろうVisitor Centreがあり、その隣には監獄=写真=がある。平和な島でも酔っ払いのケンカなどのトラブルが起こることもあり、場合によってはここに収監されるのだそう。



### Maseline Harbour

フェリーの船着場。ここからトラクター・バス（あるいは徒歩）で島中心部に向かう。

### Island Hall

金曜夜は島の人でにぎわいを見せる公民館。島内に3つあるパブのうちのひとつがここに入る。また、島内で持ち帰り用のお酒を買う場所はここと、「The Avenue」の東の外れにあるパブ「Bel Air Inn」だけ。